

令和4年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立住吉小学校

1 自己評価書

教育目標	心身ともに健康で「生き抜く力」を身につけた児童の育成					
基本方針	コミュニティ・スクールを推進し、地域の学校支援体制を構築しながら「知」「徳」「体」のバランスのとれた子どもを育成する。					
本年度重点目標	1 コミュニティ・スクールを推進する。 2 基礎・基本の定着と活学力の向上を目指した確かな学力を育成する。 3 一人ひとりを生かす生徒指導の充実と豊かな心を育成する。 4 健康でたくましい体を育成する。 5 教育環境の整備を推進する。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	本校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。 ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B C	B	
	②	授業改善	主体的な学びの実現に向けて授業改善に努めた。(一斉教授型の授業スタイルからの脱却)	・教師アンケート C ・保護者アンケート A	B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート B ・児童生徒アンケート A	B	
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、主体的に学びや個に応じた学びの推進に努めた。	・教師アンケート C ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート A	B	
	③	家庭学習の充実	授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心意欲を高め、読書習慣の定着に努めた。	・教師アンケート C ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート C ・保護者アンケート B	B	
				・児童生徒アンケート B		
	(成果と課題) ・ペア学習やグループ学習を取り入れるなど対話する場面をできるだけ確保したことで、児童は話すことに少しずつ慣れてきた。 ・振り返りを書き発表させた後、良くなったことについて教師が取り上げ、変容した内容を児童に意識付けた。 (改善策等) ・ミニテスト等を活用して児童のつまずきを詳しく把握し、授業や補充学習において当該児童のつまずきに応じた問題に取り組ませる。 ・教えるべきことは教えつつも、対話的な授業として実践することができる部分は積極的に実践する。 ・EILSやeライブラリについて校内研修で取り上げ、活用方法を教師が具体的に習得できるようにする。 ・定期的に図書室に行く時間を確保したり、市の図書館から借りている本を積極的に紹介したりするなど、本に親しむ機会をより多く設ける。 ・新型コロナウイルス感染症の影響でふるさと学習を2学期以降に変更したので、これから実践する予定である。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。 ・教師アンケート C ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B	B		
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。	・教師アンケート B ・保護者アンケート A ・児童生徒アンケート A	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート B ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート B	B	
			いじめの未然防止、早期発見、解決に向けて組織的に取り組むとともに、地域・保護者に対して、「学校いじめ防止基本方針」の周知に努めた。	・教師アンケート B ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート B	B	
	③	基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。 ・教師アンケート B ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート B	B		
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 ・児童生徒アンケート B	B		
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。 ・児童生徒アンケート B ・児童生徒の姿			
	(成果と課題) ・支援員、ハートなんでも相談員を含む教職員間で情報交換しながら、児童の人間関係を把握し、共通理解しながら指導している。 ・ルールを守ることができる児童が少しずつ増えている。 ・自己中心的な言動が続いている児童がいる。 ・挨拶を自分からすることや集合時は静かに行動することなど、改善が必要な項目が複数ある。 (改善策等) ・規範意識が高まるように、全教職員が同じ熱を持って、粘り強く声を掛け続けていく。 ・「教えて褒める」を基本として対応しつつも、「ならぬことはならぬ」として、一つ一つ確実に指導していく。 ・不登校傾向のある児童について、校内で十分に相談し対応策を練り、関係諸機関とも連携して的確に対応できるようにする。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C C	C
	②	働きやすい環境づくり 業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
			・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったことがあると相談し合うなど、教職員間に助け合う雰囲気がある。</li> <li>・計画的な課外活動ができており、無理のない状態で対応できている。</li> <li>・時間外勤務が80時間を超える教職員が一定数おり、減少傾向があまり見られない。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を立てて早めに取り掛かるなど、見通しを持って仕事を進める。</li> <li>・さまざまな場面で時間の大切さを意識できるように声を掛け合い、早めに帰ることのできる日を増やしていく。</li> <li>・時間が掛かっている原因について分析し、簡略化できることを見付け改善する。</li> </ul>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	A	
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	B		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を支援する組織「住吉小もてころサポーター」を結成し、運用を始めることができた。</li> <li>・ホームページや学級通信・学校通信を通じて、継続的・計画的に発信することができた。</li> <li>・見通しの甘さから、地域コーディネーターなどに負担が掛かり過ぎた。</li> <li>・学校運営協議会についての共通理解が不足している。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会や「住吉小もてころサポーター」について、校内研修で取り上げ、共通理解を図る。</li> <li>・地域コーディネーターが見通しを持って活動できるように、2学期以降の計画を一覧表にする。</li> <li>・特定の教職員に負担がかかり過ぎないように、気を配り合い、声を掛け合いながら仕事を進める。</li> </ul>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満